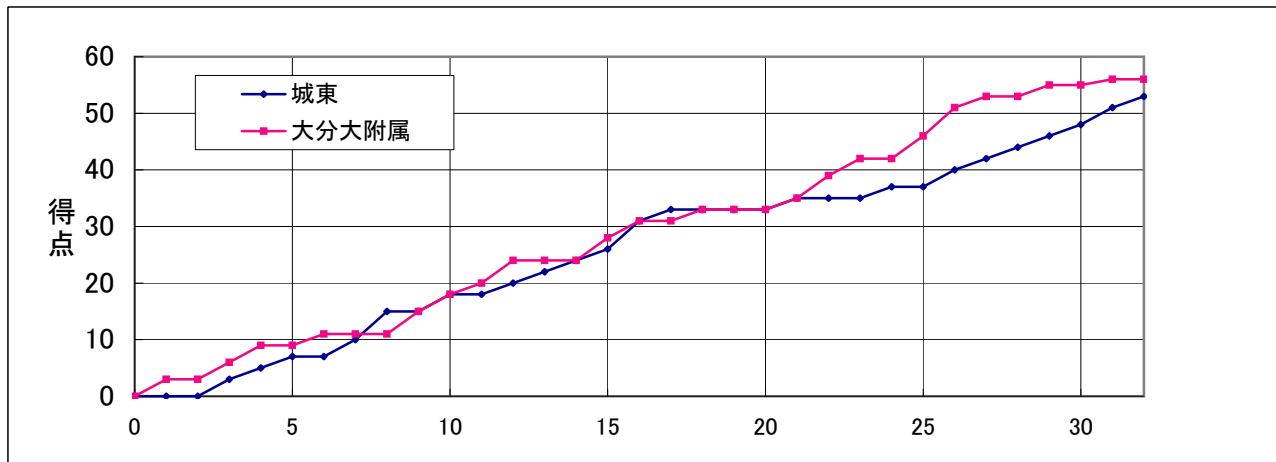


大会名	平成21年度 第30回全九州中学生 バスケットボール春季選手権大会	A2	10:50	男子1回戦																
	期日	2010年(平成22年)3月13日(土)	城東 53 (佐賀2位) ●	<table border="1"> <tr><td>15</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>16</td><td>—</td><td>20</td></tr> <tr><td>6</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>16</td><td>—</td><td>14</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	15	—	11	16	—	20	6	—	11	16	—	14	—	—	—	56 大分大附属 ○ (大分1位)
					15	—	11													
16	—	20																		
6	—	11																		
16	—	14																		
—	—	—																		
会場	大分県立総合体育館																			

主審 福岡 敏徳 副審 中野 洋平



タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q			OT1	OT2
—	25:43	29:05	31:23	—	—

城東

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 喜多川 太郎 (C)	10	1	3	1	5
5	* 水頭 貴大	11	0	5	1	2
6	* 竹田 周平	16	1	5	3	2
7	伊東 拓也	—	—	—	—	—
8	御厨 弘貴	—	—	—	—	—
9	福田 大貴	0	0	0	0	0
10	堤 隆之介	—	—	—	—	—
11	浅野 達也	—	—	—	—	—
12	久保 孝平	—	—	—	—	—
13	帆風 瑠成	—	—	—	—	—
14	* 高祖 優誠	7	1	2	0	0
15	* 青柳 祐樹	9	0	4	1	3
16	中村 竜己	0	0	0	0	0
17	池田 有輝	—	—	—	—	—
18	副島 大輝	—	—	—	—	—
コーチ	綾部 嘉弘	—	—	—	—	—
合計		53	3	19	6	12

タイム・アウト(経過時間)

1Q・2Q	3Q・4Q			OT1	OT2
—	31:03	—	—	—	—

大分大附属

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	篠田 侃隆	0	0	0	0	0
5	* 大西 陵仁	10	0	5	0	3
6	衛藤 逸平	—	—	—	—	—
7	* 永島 佑一 (C)	2	0	1	0	3
8	* 橋 泰地	22	2	8	0	4
9	* 合屋 亮佑	9	3	0	0	1
10	* 衛藤 裕太	9	0	3	3	5
11	三輪 信嘉	—	—	—	—	—
12	甲斐 一史	—	—	—	—	—
13	帆足 直也	—	—	—	—	—
14	堀 雄士郎	0	0	0	0	0
15	新村 壮司	2	0	1	0	1
16	吉良 倫太郎	2	0	1	0	0
17	川合 健斗	—	—	—	—	—
18	高木 崇丞	—	—	—	—	—
コーチ	後藤 真一郎	—	—	—	—	—
合計		56	5	19	3	17

\*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル R…リバウンド As…アシスト

戦評

1回戦第2試合Aコートでは、佐賀第2代表城東中学校と大分第1代表大分大附属中学校のゲームが行われた。ゲーム開始は附属#9合屋の3Pからスタートした。両チームとも初戦とあってか動きが固く、#10衛藤のバスケットカウント後、フルコートマンツーマンディフェンスによって城東のターンオーバーを誘発する。しかし、城東タイムアウト後のハーフコートオフェンスが徐々に機能し始め、残り49秒城東#5水頭のカウンタプレーで逆転。第1Qは11—15城東リードで終了した。

第2Qに入り、附属#5大西#8橋のシュートですぐに追いつく。附属はナンバープレーで得点を重ね、城東は#4喜多川の1ON1を起点にオフェンスを組み立てる。附属のシュートが落ち始めるが、城東もボールキャリアに苦戦し、一進一退の攻防が続く。前半は31—31の同点で終了した。

第3Qが開始されたが依然として両チームとも固く、得点は伸びない。附属のナンバープレーによるシザーズカット、城東のドライブカットも、シュートは落ちる。附属のプレスディフェンスに城東#4喜多川は、たまたぎターンオーバーをおかす。附属#9合屋の3Pが決まり7点差となる。城東#6のファーストブレイクもシュートを落とし、37—42で第3Qを終える。ともに得点の伸びないゲームとなった。

最終Qに入るが、城東は附属の執拗なプレスディフェンスに苦しむ。附属#8橋の3Pが決まり、11点差となる。残り6分で城東はタイムアウトをとる。すかさず城東#6竹田がドライブし、シュートを決める。城東#5水頭がファウルをもらっても、フリースローを2本とも落とす。その後城東#5水頭は連続して2ゴールを決めるも、附属のプレスにターンオーバーを繰り返し、残り2分55秒で再び城東がタイムアウトを請求した。城東#5水頭のファウルでチームファウルが5つを超え、附属#10衛藤はフリースローを2本とも決める。残り1分40秒、城東#4喜多川が5ファウルによって退場となるが、城東#14高祖が奮起し、5点差までつめた。城東のフルコートディフェンスに附属はターンオーバーをおかし、附属はタイムアウトをとる。城東#15青柳がドライブを決め、3点差に詰める。ジャンプボールシチュエーションも附属のボールとなり、附属56点城東53点で附属が勝利した。

© 2010 Yuzo Kosaka All Rights Reserved Vol.0063

記者 土谷、武野 (所属) 大分県バスケットボール協会